

「e-mail」と「恋愛」の同一性 e-mailのエチケット問題

同期中心の集まりでの出来事

同期中心の集まりがありました。昔から一緒に集まって遊んでいた仲間の集まりです。こうした集まりには世話好き人間が必須です。今回も世話人が4名の仲間に声をかけてくれて、場所を決め、レストランの予約もしてくれました。

当日の午後、世話人から電話がありました。

「みんな、今日、集まるのかなあ」「全然、連絡が無いんだよ」「メールを出しても返事がないので、来るのか来ないのか、わからないんだよ」と不安をぶちまけます。

「心配ないよ、連絡がないのは、わかった、ということだよ」と世話人に伝えました。そんなことを知らない仲間たちは、約束の時間より早めに到着し、ビールを呑んでいました。世話人は、やっぱり一言苦言を呈しました。

H専務の教え

そんなことがあって、思い出したことがありました。H専務の教えです。

2003年のJFEスチール発足時、我らの部門の長は、H専務でした。営業の副本部長を兼務されていて、営業センスを身につけている方でした。

H専務がよく口にしていたのは、「メールが着たら、かならず当日中に返事をする事」でした。「相手の質問にすぐに答えられないときは、いついつまで返事をする」と言え、「回答の時期が言えないようなら、追ってご連絡します」でいい、「必ず応答しろ」。それが教えでした。

ビジネス上、それは必要なものでした。でも、よく考えてみると、ビジネスを上手く行なうほかに、もうひとつ重要なことがあるように思いました。すぐにレスポンスすると、メールをくれた相手に安心感を与えるという効果があります。

メールをしても返事をくれない相手に対する思いは、「拒絶されたのではないか」という恐れ・心配です。すぐに返答するというということは、そうした心配を相手に与えない効果があります。

恋人関係と同じ

恋人同士のやり取りも同じではないでしょうか。返事が来ないと「嫌われたのではないか」と心配します。恋人に心配かけないように、なるべく、早めにレスするようにしましょう。

(JFEテクノリサーチ 鈴木元昭)